

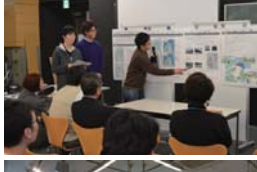
豊洲プロジェクト

1. 希薄化する地域コミュニティの強化 2. 河川・運河の再生と活用

●船カフェ・水彩まつり

本年度は、6月に「船カフェ」を実施した。9月には、「豊洲水彩まつり」「お台場Eポート防災交流大会」を開催した。

- ・豊洲地区運河リネサンス協議会への参加や議事録の作成
- ・地域住民とのふれあい
- ・ポスターの作成、学内でのポスター掲示、販売POPの作成
- ・運河クルーズのチケットや案内板、各所への申請書類の作成
- ・当日のクルーズ受付、ガイド
- 地域活動をいかにサポートするのかを学んだ。
- イベント開催における調整力を身につけた。



●地域設計演習

工学部建築学科3年次後期の授業である、地域設計演習で内部河川の活用に関する提案を行った。

- ・内部河川の活用に関する提案
- ・深川東京モダン館で発表
- 地域を分析し、地域に合った提案をする力をつけた。
- 地域住民に対して発表し、意見を直接きく機会を得た。

●建築ゼミナール2

工学部建築学科3年次後期のゼミナール2で、通称「東電堀」である豊洲6丁目位置する水辺空間の活用方法について提案した。

- ・地域住民を招いた発表会
- 地域を分析し、地域に合った提案をする力をつけた。
- 地域住民に対して発表し、意見を直接きく機会を得た。

さいたま市プロジェクト

1. 公共施設の再編 2. 地域のコミュニティ拠点化

●公共施設再編ワークショップ

埼玉県与野本町小学校の公共施設複合化へ向けた取り組みである。ワークショップに用いる模型作成や、ワークショップツールの作成を、さいたま市や株式会社建築技術研究所、株式会社類設計室と共にやった。また、当日のスタッフとしての役割も果たした。

- ・設計の研究室とは違い、模型を作成する機会がすくないため、建築の実務という点において貴重な体験をした。
- 参加者にとってわかりやすい模型をつくるよう配慮した。
- それぞれの計画案に合わせて模型を作りなおす作業は困難であったが、話し合い、ひとつの物を作り上げるプロセスを学んだ。
- ・司会は学生が行い、計画案の説明時に補助をした。
- ・ワークショップツール「交流シーナード」を、さいたま市と共に作成し、ワークショップで使用した。
- 参加者がより具体的な施設利用イメージができるよう配慮した。



※交流シーナード一覧

近隣地域の市民

文化財資料室
資料をみているとボランティアが親切に解説してくれ、おすすめの散策地も教えてもらった。

小学校の児童

地域交流室
社会の授業。文化財資料室から運び込まれた資料を見ながら、クラスの皆で大きな歴史地図を作成する。

放課後児童クラブ入居児童

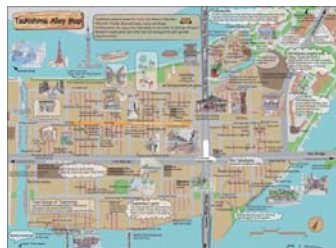
中庭
友達と昨日のテレビ番組の話をしながら中庭へ。中庭で会った先生に挨拶をし、放課後児童クラブに向かう。

文化財資料室ボランティア

地域サロン
他の人文化財資料室ボランティアのメンバーと新しい企画展の勉強会をする。

月島プロジェクト

1. 2020年に向けた急速な開発 2. 地域の魅力の再発見と共有



●Tsukishima Walking Tour

アメリカのミシガン大学、カルフォルニア大学、ユタ大学が月島を訪問し、英語でツアーを行った。

- ・ツアーで使用する資料の作成
- ・ガイドのアシスタント
- 外国人とのコミュニケーション経験を培った



●Walk21Vienna

国際会議である「Walk21Vienna」において、英語でプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションの原稿は、まず学生が元の文章をつくり、月島在住の翻訳家に校正をしていただき、発表に至った。月島長屋学校の受講生にも、事前にプレゼンテーションをする機会をつくり、アドバイスをいただいた。

- ・英語でのプレゼンテーション
- ・プレゼンテーションの原稿や資料の作成
- ・ウィーン視察の資料作り
- 海外でのプレゼンテーションの方法、英語でコミュニケーションを図る機会を得た。

プレゼンテーションや英語に対してアドバイスをくださった月島在住の翻訳家や月島長屋学校の受講生に報告する場を設けた。

- ・報告のための資料作り

南会津プロジェクト

1. 急速な過疎化 2. 産業の衰退

たのせ特産品開発

特産品開発の推進、販売促進プロモーションの検討、特産品ラベルやパッケージの作成。

たのせ集落の活動

集落の活動の推進、販売促進プロモーションの検討、特産品ラベルやパッケージの作成。



●都市交流事業支援

(集落内イベント・芝浦祭)

集落との交流事業として、集落で行われるイベントや芝浦祭へ出店しており、運営やスタッフとして支援を行った。

・集落の方との調整や当日の活動など、集落の方と実際に関わりあいながら行うことで、集落の現状や活動に対する考えについて知ることができた。

●集落の6次化支援

集落の6次化支援として、販売促進プロモーションを検討し、特産品ラベルやパッケージを作成した。また、継続して行われてきた集落の活動についてまとめ、広報などに活用できるにポスターやパンフレットを作成した。

・集落の方々と地域おこし協力隊と連絡を取りながら、パッケージデザイン案の検討した。また、集落での検討会にて、行政や6次化の専門家の方との意見交換なども行い、デザインを深めた。

→多様な主体との関わりを通して、成果物を作成する上での実務的な検討の進め方について学んだ。

・集落の方々と連絡を取りながら、ポスターやパンフレットを作成した。

→集落の活動や大学の支援を振り返ることで、長期的な活動の展開を把握し、広報活動をする上での狙いなどを明確にした